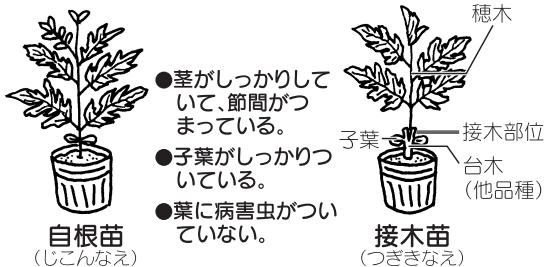


1 苗の準備

苗の選び方

苗には、自根苗と、接木苗があります。

●苗選びのポイント



自根苗
(じこんなえ)
種から育てた苗

接木苗
(つぎきなえ)
穂木
子葉
接木部位
台木
(他品種)

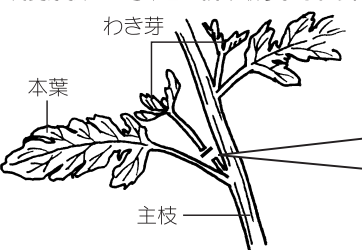
- 茎がしっかりしていて、節間が詰まっている。
- 子葉がしっかりついている。
- 葉に病害虫がついていない。

接木苗: 耐病性の高い品種を台木に用いて接木した苗。特長: 土壌病害の影響を受けにくい。ある程度の連作が可能。
●特に一昨年、黄化症状が栽培中に発生した畑には接木苗の植え付けを行う。

4 わき芽かき・着果処理

わき芽かき

本葉のつけ根から出るわき芽を摘み取ります。特に、第1花房の下のわき芽は樹勢が強いのので早目に摘み取りましょう。



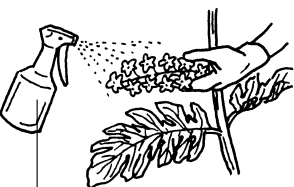
わき芽を小さいうちに手で摘み取る。



× ウィルス病が、汁液伝染する恐れがあるので、ハサミは使わないこと。

着果処理(ホルモン処理)

ミニトマトの着果や肥大促進、粒揃い向上などの為、ホルモン剤の処理が有効です。使用時期はそれぞれの花房で、2~3花咲いた頃に1回散布します。



ホルモン剤

! 着果処理時の注意点

- 同じ所へは、2度がけしないこと。
- 30℃以上の高温下での散布は避ける。
- 芽や幼葉へかけると萎縮するので、花のみへ散布する。

2 畑の準備・支柱立て

土作り

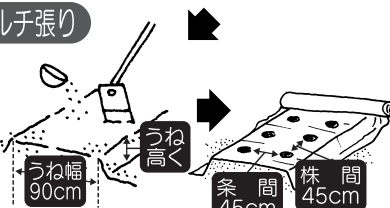
植え付けの2週間前までに苦土石灰、堆肥をまき、トマトは根張りが良いので深く耕します。



土作り
・苦土石灰: 1㎡あたり150g
・JAファーム有機堆肥: 1㎡あたり3kg

元肥・うね立て・マルチ張り

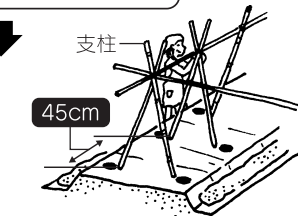
植え付けの1週間前までに元肥をまき、うね立てを高く行い、植え付け前に地温を上げるためマルチを張ります。



元肥 ・JAファームきゅうり、とまと専用肥料: 1㎡あたり50~80g(ひと握り約40~50g)

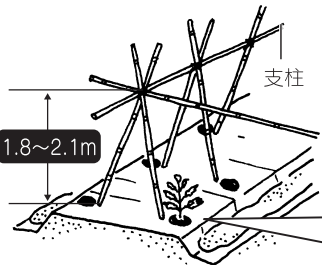
支柱立て

マルチを張ったら支柱立てを行い、斜めに支柱を入れ強度を上げます。



3 植え付け・誘引

あまり早く植えても地温が低いと根付きません。第1花房が1花咲き始めた頃を、植え付けの目安とします。(第1花房は通常本葉8~9枚でつきます。)



誘引

苗を植えたら倒れないようすぐに支柱に誘引します。その後も生長に合わせて誘引を行います。



茎が太るのに支障がないよう、ゆとりをもたせて8の字に縛って誘引する。

植え付け方

根鉢を崩さないように植え付ける。

- ①苗は深植えしない。
- ②前日、植え穴に水を入れておく。
- ③花房を通路側に向けて植え付ける。(花房は同じ方向へつく習性があるので収穫が楽になる)

接木苗の植え方

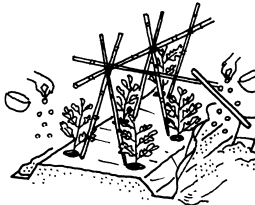


接木部位が、土に触れないように植え付ける。

5 追肥

●第1回目追肥 (第1花房が結実したら)

●第2回目以降追肥 (葉茎の生育状態を見ながら)



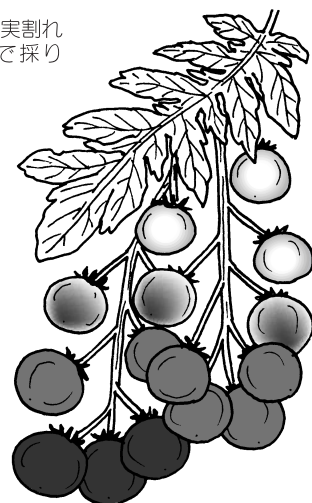
葉茎で見る健康診断

栄養適正	栄養過剰	栄養不足
追肥必要無し	追肥延期	至急追肥
茎の太さが1~1.2cm。葉はお皿を伏せた程度の曲がり具合。葉色が濃く、毛もよく伸び、みずみずしく感じる。	葉が内側に向かって、ぐるりと巻いていれば樹勢が強い証拠。葉面は凹凸がで、葉はカールする。	葉柄が細くて節間が間延びし、葉がパンザイするように上に向かってY字形になっている。葉色はあせ、葉が硬化し上巻き気味。

6 収穫

果実が十分に熟したものから収穫します。収穫時に、ヘタを落とさないように注意しましょう。

ミニトマトは実割れしやすいので採り遅れに注意。



科名	ナス科
原産地	南米アンデス山地
連作障害	あり(3~4年)

制作
JAファーム 専門部会
(無断転載禁止)